

本時案

| | | | |
|-----------------|---------------------------|-----------------|----------------|
| 家庭科 6年1組 32名 | 本時：食品を加えてレベルアップ（4時/全6時間中） | 単元：1食分の献立を工夫しよう | 櫻井 睦子 小幡 律子 |
|-----------------|---------------------------|-----------------|----------------|

会場：ランチルーム

| 本時の主眼 | | | |
|--|----|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 家族のために作ろうと考えた献立について、友だちと意見交換しながら、食品を加えたり入れ替えたりして、さらに家族に喜んでもらえる献立に工夫することができる。 | | | |
| ポイント（ICT活用の効果） | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> タブレット上の献立表に食品群の図を挿入することで、食品が簡単に選択でき、また見やすくなる。 青木小学校のホームページの給食献立を閲覧することで、献立を考えるヒントを得ることができる。 電子黒板に作成した献立表を提示することで、工夫した献立の様子がクラス全体に共有できる。 | | | |
| 情報活用能力 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 献立表を提示しながら、伝えたいことを分かりやすく発表することができる。 | | | |
| 授業の流れ | | | |
| 児童の活動 | 時間 | 指導 | 類型 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学習問題：家族に喜んでもらうために自分の考えた献立をさらに工夫しよう。どんなふうに工夫したらいいかな？ </div> | | | |
| 1. 自分の考えた献立について、家族に喜んでもらうためにもう一工夫するにはどうしたらいいか考える。 「何か足りない気がする。どうすればいいかな？」 「野菜が足りないのでは何か増やしたい。」 「無機質の欄に何も入っていない。」 | 10 | <ul style="list-style-type: none"> 献立のテーマや家族からの希望と自分の考えた献立を見返しながら考えるようにする。 発言から、栄養バランスや色どりをよくするためには食品を増やすと工夫できそうだと気づかせる。 10月の給食に登場した献立：卵がかかった「ミートソース」の写真を提示し、一つの食品を加えると、色どりや栄養バランスがよくなるのはもちろん、味もおいしくなったことを思い出させる。 | A 1 ・青木小学校ホームページ ・パワーポイントによる比較写真 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学習課題：友だちに意見をもらいながら食品を加えたりして工夫してみよう。 </div> | | | |
| 4. 各班でそれぞれが考えた献立を発表して、友だちがどう工夫したいと考えているかを聞き合う。 5. 友だちの献立に加えられる食品はどんなものがあるか考え、食品名を付箋に書いて貼りながら意見交換して、加えられる食品を出し合う。 「無機質には、しらす干しを入れれば合うかも。」 「野菜が少ないんじゃない？」 「どのメニューにも人参を使っているね。違う野菜に変えた方がいいんじゃないかな？」 「サラダだから、コーンとか入れたら色がきれいになるんじゃない？」 | 15 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの献立を発表しあう時は、自分の考えを伝えるために献立のテーマや工夫したいことを必ず言うようにする。 付箋には加えたい食品名書いて、なぜその食品がいいかなど理由については言葉で話し、話し合いが進むようにする。 班全員の献立にコメントができるように、1人の献立につき3分を目安に話し合うようにする。 加える食材やアイデアが出にくい班には、食品群一覧表やホームページの給食の献立を参考にして考えるようアドバイスする。 | C 2 ・タブレットPC ・食品群一覧表 |
| 6. 友だちから出された食品や意見を、各自のタブレットの献立表に整理する。 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 付箋に書かれた食品をタブレットの献立表には食品図で貼りつけ、理由やアドバイスについて | |

| 7. 班の友だちの考えを反映した献立を発表し、さらに加えられる食品はないか、全体で考える。 「無機質の食品が足りないから、みそ汁にわかめとか入れるといいと思う。」 「サラダに赤い色のトマトを入れるといいと思う。」 「キャベツを加えると野菜が増えていいと思う。」 「副菜が工夫されているところがすごいと思う。」 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> は文章でまとめるようにする。 話し合いで加える食品が見つけれなかったりして困っていた班の献立を取り上げる。 意見が出ないときは「栄養のバランスをさらによくするもの」「色どりをよくするもの」などの観点をしぼって、食材一覧表をもう一度振り返るようにする。 | C 1 ・電子黒板 |
|--|---|--|-------------------------------------|
| 8. 旬の野菜を取り入れると、さらにおいしく食卓が豊かになることを聞く。 旬の野菜：さといも、大根、レンコン、ゴボウ、ホウレンソウ、小松菜、野沢菜、水菜、リンゴなど4. | 5 | <ul style="list-style-type: none"> 旬の野菜について「ほうれん草」を取り上げ、冬のほうれん草はおいしさも栄養価もアップすることを話す。また12月の給食に「ほうれん草」入りのポテトサラダが登場した例を提示し、食品の差し替えが工夫できることも伝える。 児童の実態から、旬の野菜についての提案なしでも十分工夫ができている場合は扱わない。 | A 1 ・パワーポイントによる写真・図 ・旬の野菜の一覧表 |
| 9. 班の友だちからもらった意見や旬の野菜の話をもとに自分の献立をもう一度見返し、加えたり入れ替えたりする食品を献立表に記入してその理由も書く。 | 5 | <ul style="list-style-type: none"> PCの献立表に、自分の考えや友だちの意見を元にした食品を加えるようにする。 | B 4 ・タブレットPC |
| | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: fit-content;"> 評価：家族に喜んでもらえる献立を工夫できたか。 </div> | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 次時は、自分の考えた献立について準備や調理の手順を考えることを伝える。 | |
| 使用機器・ソフト・コンテンツ等 | | 電子黒板・タブレットPC | |

類型：「学習場面ごとのICT活用」（文部科学省）

| A 一斉学習 | | B 個別学習 | | C 協働学習 | |
|--|---|--|--|---|--|
| 挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を利用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。 | | デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進捗で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。 | | タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。 | |
| A1 教員による教材の提示  画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用 | B1 個に応じる学習  一人一人の習熟の程度等に応じた学習 | B2 調査活動  インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録 | C1 発表や話し合い  グループや学級全体での発表・話し合い | C2 協働での意見整理  複数の意見・考えを議論して整理 | |
| B3 思考を深める学習  シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習 | B4 表現・制作  マルチメディアを用いた資料、作品の制作 | B5 家庭学習  情報端末の持ち帰りによる家庭学習 | C3 協働制作  グループでの分担、協働による作品の制作 | C4 学校の壁を越えた学習  遠隔地や海外の学校等との交流授業 | |

| 年 | 状況 | 機材 |
|---|---------------------------|--|
| | 平成 22 年度絆プロジェクト情報通信活用事業 | <p>[人材]</p> <p>選任 ICT 支援員 1 名常駐</p> <p>[4 年生以上教室用 PC]</p> <p>ONKYO TW217A5 タブレット PC×124 台</p> <p>[電子黒板]</p> <p>パイオニア TH-P50G1EH50 型プラズマ×6</p> <p>専用ディスプレイ用スタンド×6</p> <p>[ソフトウェア、デジタル教科書]</p> <p>光村図書「国語」1～6 年</p> <p>光村図書「書写」1～6 年</p> <p>東京書籍「社会」3～6 年</p> <p>帝国書院「地図」1～6 年</p> <p>啓林館「算数」1～6 年</p> <p>信教出版「理科」3～6 年</p> <p>東京書籍「家庭科」56 年</p> <p>チャレンジ漢ブリッコ 3～6 年</p> <p>チャレンジ計ブリッコ 3～6 年</p> |
| | 花まる学習会提携事業 | <p>[ソフトウェア、計算ドリル]</p> <p>クラウド型タブレット PC 用ドリル</p> |
| | 平成 25 年度青木小 ICT 整備事業（村独自） | <p>[職員用 PC]</p> <p>富士通 LIFEBOOK A574/H ノート PC×23</p> <p>オフィススタンダード 2013×76</p> <p>[パソコン室用 PC]</p> <p>富士通 LIFEBOOK T902/G ノート PC×35</p> <p>ジャストスマイル 5×36</p> <p>SKYMENU クライアントライセンス×36</p> <p>[4 年生以上教室用 PC]</p> <p>HP ElitePad 900 タブレット PC×100</p> <p>専用ハンドル付プロテクションケース 2×100</p> <p>ジャストスマイルクラス×100</p> |
| | 今後の推進予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の改定にあわせたデジタル教材の更新の実施。 ・タブレット PC を段階的に拡充していく。 ・タブレット PC の更新。先を見越して購入計画を立てる。 |

家庭科学習指導案

研究テーマ

ICT で、楽しく分かりやすい授業づくりを目指して
～学び合いを通して、生活に生かそうと願いがもてる家庭科～

授業学級 6 年 1 組 3 2 名（担任 森 政彦）

授業者 櫻井 睦子（家庭科専科）、小幡 律子（ICT 支援員）

授業会場 青木小学校ランチルーム

テーマ設定の理由

6 学年の児童には、自分の課題を最後まで粘り強く追究するよさがある。ただ、追究の過程で自分の考えをみんなの前で説明したり話し合ったりする場面では躊躇する姿が見られる。ICT に関しては、4 年次から 1 人 1 台のタブレット PC を持ち、繰り返し利用しコンピュータに慣れ親しんできている。授業だけでなく、5 年次は上田マルチメディアセンターでコンピュータグラフィックを習い、6 年次は修学旅行や社会見学の取材活動でタブレット PC を現地に持参し、活用してきた。家庭科においては調理実習やミシン実習など体験的な活動を含む授業に積極的に取り組む。家庭での生活経験の有無が様々であることから、知識や技能に関して個人差がある。

前年度本校では、上小視聴覚教育研究大会において、実物投影機を用い、大きく鮮明な映像を提示することによって、児童は課題が把握しやすくなるのではないかという仮説をもとに ICT 機器の有効的な活用について研究した。本年度は、1 学期に新たに導入したタブレット PC と双方向の授業支援ソフトの活用について研究を進めているところである。研究を進める中で見えてきたことは、児童が主体的に学習を進めるにはこれらの機器も教師が一方向的に与えるのではなく、児童が学習する過程で必要とされたときに活用できるようにしておくことが大切だということである。調べたことを書きこんだり、カメラで映像を取り込んだりして、まとめて活用したり、まとめたものを友だちと比べたりして、互いの情報を交換し合い、深め合うこともより主体的に学習することが期待できる。また学習の足跡をデータとして保存しておくことにより、相互に情報を交換できるだけでなく、次の時間の授業や次年度の学習に生かすことができる。今後、コンピュータや新しい機器がますます増えていくことと思われるが、教科で目指す基礎基本を踏まえ児童の主体的な活用方法を考えるようにしたいと考えている。

また、教師は積極的に ICT に関心を持ち、教材化できるようにしていかなければならないと思われる。本年度、研究しているタブレット PC は、全体追究、個人追究、グループ学習の場面の切り替えを児童のリアルタイムの学習状況を把握しながら容易に行うことができる良さがある。更に、どのようなアイデアあふれる教材・教具だとしても児童が必要感をもたなければ、主体的な学習とはなりにくいことが分かってきた。児童一人ひとりの思いや願いを大切に、学ぶ側に立った活用を図るように心がけたいと考えている。

家庭科においては、家庭生活への関心を高め、自分のできることを家庭生活で継続的に実践していく児童、学習で身に付けた知識及び技能を生かし、家庭生活を工夫する児童、自分の考えと他者の考えとを比べ、よりよい生活に向けて話し合う児童を本校では目指している。そこで、家庭科のねらいにそいながら、効果的に ICT 機器を活用し、研究テーマである「ICT で、楽しく分かりやすい授業づくり目指して～学び合いを通して、生活に生かそうと願いがもてる家庭科～」にせまりたいと考えた。